

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：12602

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K17630

研究課題名(和文) 認知症を持つ高齢がん患者の疼痛緩和に向けたケアモデルの構築

研究課題名(英文) Development of care model for pain relief for elderly cancer patients with dementia

研究代表者

廣岡 佳代(Hirooka, Kayo)

東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・准教授

研究者番号：10407132

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：認知症を持つ高齢がん患者は、十分ながん疼痛が治療されていないこと、鎮痛薬が使用されておらず、痛みが緩和されていないことが指摘されている。認知症を持つ高齢がん患者の生活の質を高めるためには、適切な疼痛ケアにつながる看護師の知識・態度の向上が不可欠である。本研究の目的は、認知症を持つ高齢がん患者に質の高い緩和ケアを提供するために、疼痛マネジメントに関するケアモデル(暫定版)を構築し、また、高齢がん患者における終末期ケアの質評価を痛みや緩和ケアを含めた側面から検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

急速な高齢化に伴い、認知症を持つ高齢がん患者が増加する一方、がん患者の痛みを的確にとらえることは難しい。本研究結果を用いることで、高齢がん患者のQOL向上につながるだけでなく、効果的な看護提供につながると考えられる。

研究成果の概要(英文)：To improve the quality of life of patients with comorbid cancer and dementia, it is essential to improve nurses' knowledge and attitudes leading to appropriate pain management. The purpose of this study was to develop a model of care regarding pain management to provide high-quality palliative care to elderly cancer patients with dementia. Due to the spread of covid-19, the study was changed from the original research plan, but a care model (tentative version) was developed, and the quality of end-of-life care was also examined from the aspect of pain.

研究分野：高齢者ケア、緩和ケア

キーワード：がん 認知症 疼痛緩和 痛み 看護職

## 1. 研究開始当初の背景

わが国では急速な高齢化に伴い、がん患者総人口の70%以上が65歳以上である(国立がんセンター, 2022)。また、認知症を持つ高齢者数も増加しており、平成37年には約700万人(5人にひとり)が認知症になると推計されている(内閣府, 2017)。このような背景のなか認知症を有するがん患者が増加している。

がんの進行により、患者は疼痛、食欲不振、全身倦怠感、呼吸困難などの症状を経験する(Morita 1999 J Pain Symptom Manage)。がん疼痛は、世界保健機関による三段階除痛ラダーや日本緩和医療学会によるがん疼痛の薬物療法に関するガイドライン(2020)など、標準的な治療方法が確立している。

しかしながら、がん患者が認知症を有する場合、がん疼痛の緩和は認知症を併発していない患者と比して十分に行われていないことが指摘されている。

## 2. 研究の目的

本研究では、国内外の先行研究のレビューケアモデルを作成する、認知症を持つ高齢がん患者に対して、卓越した看護実践を提供するがん看護や緩和ケア分野を専門とする看護師が行う疼痛緩和ケアの内容を記述する、レセプトデータを用いた高齢がん患者の緩和ケアの質評価の実施を目的として実施した。

## 3. 研究の方法

### 1) 文献レビュー

国内外の文献レビューを行うために、文献データベース PubMed, CINAHL, Google Scholar, 医学中央雑誌 WEB 版を用いて、英語では cancer, dementia, pain、日本語ではがん、認知症、痛み等を検索用語として、網羅的に文献検索を行った。

### 2) インタビュー調査

認知症を持つ高齢がん患者に提供されている卓越した疼痛緩和ケアの実践内容、工夫点、課題等を記述することを目的にがん看護、緩和ケア分野を専門とする医療者(医師、専門看護師、認定看護師)20名を対象にインタビュー調査を実施し、その内容をもとに質的帰納的に分析を行った。

### 3) ケアモデル(暫定版)の検討

文献レビュー、及びインタビュー調査をもとにケアモデル(暫定版)を研究協力者と協議のうえ、作成した。

### 4) レセプトデータによる終末期ケアに関する質評価

Earle et al (2003)が開発した終末期ケアの質評価指標を用い、非小細胞肺癌患者における終末期ケアの質を評価することを目的に、2014年4月から2018年11月までの366の急性期病院の全国入院患者データベースを用いて実施した。

## 4 . 研究成果

### 1) 文献レビュー

#### (1) ホスピス、緩和ケアプログラムへの参加 enrollment to hospice or palliative care

認知症とがんのある患者は、ホスピスケア (OR = 0.85, 95% CI 0.79–0.92) や、緩和ケアコンサルテーション (OR = 0.61, 95% CI 0.51–0.72)をほとんど受けていない傾向にあった (OR = 0.80, 95% CI 0.74–0.86) (Huang et al., 2017) 。 Monroe et al. (2013)の調査によると、認知機能の障害の重い患者ほど、ホスピスプログラムを受けていなかった。

#### (2) 痛みのマネジメント pain management

認知症をもつがん患者は、十分ながんに関連した痛みが治療されていないリスクがある (Blytt et al., 2017)。患者の認知症や認知機能障害が重症であるほど、鎮痛薬を投与されていないことや (OR, 1.23, 95% CI, 1.05-1.44) (Bernabei et al., 1998)、オピオイドが使用されていなかったこと (OR = 0.3, 95% CI = 0.1– 0.8, P = 0.03)が報告されている (Monroe et al., 2012; Monroe et al., 2013)。

#### (3) 死亡場所 place of death

Huang ら (2017) の台湾で行われた新規にがんと診断された患者を対象としたコホート研究では、認知症を持つがん患者は入院期間が長い傾向にあり (17.7 vs. 17.1 days,  $p < 0.0001$ )、より集中治療室に入院する傾向にあった (OR = 1.32, 95% CI 1.25–1.39)。

### 2) インタビュー調査

認知症を持つ高齢がん患者に提供されている卓越した疼痛緩和ケアの実践内容、工夫点、課題等を記述することを目的にがん看護、緩和ケア分野を専門とする医療者(医師、専門看護師、認定看護師) 20 名を対象としたインタビュー調査で得られたデータを質的帰納的に分析した。その結果、【個別の痛み表現を捉える】【痛みの表出を助ける】【副作用の出現に注意を払う】【日常生活動作を捉える】【生活状況を把握する】【生活環境を整える】【多職種共通の評価指標を用いる】【多職種でケアを統一する】などのアセスメントの視点、ケアの視点が示された。今後はこれらをもとに看護師を対象としたケアプログラムの開発やその資料の一部として洗練させていく予定である。

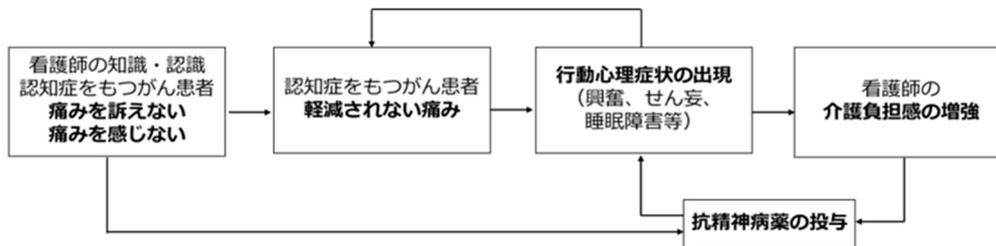
### 3) ケアモデル (暫定版)

文献レビュー及びインタビュー調査の結果をもとに、研究協力者と協議し、ケアモデルを作成した。今後はこのモデルを洗練させ、実践に応用できるよう検討を重ねる。

#### ● 認知症を持つ高齢がん患者の疼痛緩和ケアの状況

痛みは患者の主観的な症状であり、看護師は、患者の訴えなどをもとにアセスメントを行い、疼痛緩和ケアを行う。しかし、高齢がん患者に認知症があり、認知機能障害が重度であるほど、痛みを言語化して表現できない。また、患者が認知症を有する場合には、医療者は「認知症の場合には痛みを感じない」「痛みを訴えない=痛みがない」といった誤解をもつことがある (Hadjistavropoulos 2014) 。患者ががん疼痛に起因した行動心理症状 (興奮、せん妄、睡眠障害など) を示した場合には、看護師はその症状を疼痛のサインとして捉えることができないため、行動心理症状に対する抗精神病薬を投与するなどの対応

をしており、疼痛に対する適切な看護ケアが提供されていない。認知症を持つ高齢がん患者の生活の質を高めるためには、適切な疼痛ケアにつながる看護師の知識・態度の向上が不可欠である。



#### 4) レセプトデータによる終末期ケアに関する質評価

16,758人を対象のうち認知症患者は4507人(26.9%)であった。解析の結果、がんと認知症を併存する患者では医療用麻薬の投与や緩和ケアチームの関与が、認知症のないがん患者よりも少ないことが示された。これは、年齢や併存疾患を調整した後でも同様の結果であった。さらに、本研究では、がんと認知症を併存する患者は、人工呼吸を受ける可能性が低いこと、また認知症の有無による集中治療室への入室率に有意な差はみられなかった。

#### 【引用・参考文献】

- (1) Bernabei R, Gambassi G, Lapane K, Landi F, Gatsonis C, Dunlop R, Lipsitz L, Steel K, Mor V. Management of pain in elderly patients with cancer. SAGE Study Group. Systematic Assessment of Geriatric Drug Use via Epidemiology. JAMA. 1998 Jun 17;279(23):1877-82. doi: 10.1001/jama.279.23.1877. Erratum in: JAMA 1999 Jan 13;281(2):136. PMID: 9634258.
- (2) Earle CC, Park ER, Lai B, et al. Identifying potential indicators of the quality of end-of-life cancer care from administrative data. Clin Oncol 2003; 21: 1133-1138
- (3) Hadjistavropoulos T, Herr K, Prkachin KM, Craig KD, Gibson SJ, Lukas A, Smith JH. Pain assessment in elderly adults with dementia. Lancet Neurol. 2014 Dec;13(12):1216-27. doi: 10.1016/S1474-4422(14)70103-6. Epub 2014 Nov 10. PMID: 25453461.
- (4) Huang HK, Hsieh JG, Hsieh CJ, Wang YW. Do cancer patients with dementia receive less aggressive treatment in end-of-life care? A nationwide population-based cohort study. Oncotarget. 2017 Jun 29;8(38):63596-63604. doi: 10.18632/oncotarget.18867. PMID: 28969014; PMCID: PMC5609946.
- (5) Monroe TB, Gore JC, Chen LM, Mion LC, Cowan RL. Pain in people with Alzheimer disease: potential applications for psychophysical and neurophysiological research. J Geriatr Psychiatry Neurol 2012;25:240-255. <https://doi.org/10.1177/0891988712466457>.
- (6) 内閣府, 平成 29 年版高齢社会白書 [https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/gaiyou/s1\\_2\\_3.html](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/gaiyou/s1_2_3.html)
- (7) 日本緩和医療学会, がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン(2020年版), <https://www.jspm.ne.jp/files/guideline/pain2020.pdf>

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Hirooka Kayo, Okumura Yasuyuki, Matsumoto Sachiko, Fukahori Hiroki, Ogawa Asao	4. 巻 -
2. 論文標題 Quality of End-of-Life in Cancer Patients With Dementia: Using A Nationwide Inpatient Database	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Pain and Symptom Management	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpainsymman.2022.03.016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Hirooka Kayo, Nakanishi Miharuru, Fukahori Hiroki, Nishida Atsushi	4. 巻 20
2. 論文標題 Impact of dementia on quality of death among cancer patients: An observational study of home palliative care users	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 354 ~ 359
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.13860	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Hirooka Kayo, Fukahori Hiroki, Taku Kanako, Izawa Sakiko, Ogawa Asao	4. 巻 27
2. 論文標題 Posttraumatic growth in bereaved family members of patients with cancer: a qualitative analysis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Supportive Care in Cancer	6. 最初と最後の頁 1417 ~ 1424
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00520-018-4440-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Hirooka Kayo, Nakanishi Miharuru, Fukahori Hiroki, Nishida Atsushi	4. 巻 5
2. 論文標題 Hospital death in dementia patients and regional provision of palliative and end-of-life care: National patient data analysis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cogent Medicine	6. 最初と最後の頁 1 ~ 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/2331205X.2018.1483097	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 石橋 智昭、廣岡 佳代、二宮 彩子
2. 発表標題 要介護認定をアウトカム指標とした短期集中予防サービスの効果検証
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 廣岡 佳代、二宮 彩子、石橋 智昭
2. 発表標題 居宅要介護高齢者に対する緩和ケアの提供状況
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣岡佳代、深堀浩樹
2. 発表標題 在宅看取りにおける訪問看護師の介護職に対する支援
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣岡 佳代、二宮 彩子、石橋 智昭
2. 発表標題 家族との関係性とアドバンス・ケア・プランニングとの関連：アセスメントデータに基づく施設入所者の分析
3. 学会等名 第15回日本応用老年学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣岡 佳代, 中西 三春, 深堀 浩樹, 西田 淳志
2. 発表標題 認知症の有無ががん患者の看取りの質に与える影響
3. 学会等名 第24回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------